開館カレンダーはこちら

おぱんつくん わくわくあそび

作・絵：ロタ

おぱんつくんは、パンツをはいたなぞのいきもの。おぱんつくんがみつけたあそびを、いっしょにやってみましょう。

問 簡野道明記念吉田町図書館
☎52－3169

旅する54字の物語

著：氏田 雄介

地理、観光、名産、ご当地あるある…。あなたは、この物語の意味、わかりますか。

問 中央図書館 津島分館
☎32－2725

今まであなたのこと友達だと思ってたのに

著：ソン ユミ

自分の心を守りながら、気楽に他者と付き合う方法を具体的に伝授します。

問 中央図書館（パフィオうわじま内）
☎22－1065

文芸のひろば

早蕨句会

ひっそりと水無月の夜の壺の耳　福島 厚子
焼香の残り香指に梅雨兆す　井芝 千章
野の句会夏うぐひすのこゑ濡れて　酒井 孝子
遅遅と傷癒ゆる卯の花月夜かな　浜田 千鶴
甘酒啜る砥部焼のぽってりと　毛利 珪子
紅引かぬ月日の桜実となりぬ　山本ことみ

生命線映し掌にある螢かな　田中 松江
単線の駅舎にひとり青田風　浜田 京子
渡り来る風に輝めく菖蒲池　青野ひろ美
松手入れして借景の拡がりぬ　二宮 洋子
初夏の波ふり分ける高速艇　児玉 隆子
貧乏性四隅びっしり余り苗　清家矢須子
墓山も鎮守の森も梅雨入りかな　宮川 千穂
妣の忌を修す水無月三姉妹　稲田ひふみ
風のこゑ水のこゑあり蓮浄土　土山 吐舟
天赦す齢となりぬ花菖蒲　加賀城燕雀
夏被身ぬちの毒を捨てにゆく　神山ゆき子
梅雨晴間シーツの白に風遊び　秋保 櫻子
若狭国分寺へ梅雨のひとり旅　新森しなの
一尺の鮎の尾はねて手に余る　重村 眞子
神木の枯れて梅雨茸ほしいまま　大谷 重弘
一冊の俳誌机上に梅雨に入る　吉田 欽一
梅雨籠り痛し痒しと日の暮るる　丸内 松美
七曜にときめきもせず七変化　本田八千代
俗世を忘れ古刹の白はちす　芝元 孝子
余生はもこのままでよし髪洗ふ　清家 幸子
兄眠る遠き国より黄砂降る　佐野 白鳩

からたち句会

※7月号より、高校生の作品も掲載します。